

コンル カ タ
(10) KONRU KA TA 氷の上で

コキン
Kokin

貝沢こきん((二風谷))

コンル カ タ ポン ホロケウポ ハチリ。

konru ka ta pon horkewpo hácir.

1 氷の上で小さな狼の子が
ころんだ。

コンル ヌブル クシ タシ ネ ネク。

konru nupur kus tas ne nek.

2 氷がえらいからさ。

2) nupur ヌブルは、普通の人には見えないものが見え、わからないことができる、神のような力(霊力、超能力)を持っていることを言う。... tas ... nek ... タシ... ネクは主張を表す係り結びである。《...(だ)よ/さ》。

コンル ヌブル マヌ チュッ ルレ。

konru nupur manu cup rúre.

3 氷がえらいといっても太陽がとかす。

チュッ ヌブル クシ タシ ネ ネク。

cup nupur kus tas ne nek.

4 太陽がえらいからさ。

チュッ ヌブル マヌ カシ ニシ クシ。

cup nupur manu kasi nis kus.

5 太陽がえらいといってもその上を雲が通る。

ニシ ヌブル クシ タシ ネ ネク。

nis nupur kus tas ne nek.

6 雲がえらいからさ。

3) manu マヌは、日常会話の中では特別の文脈の中で「...と言われる、...と言う」という意味で使われるだけである。

ニシ ヌブル マヌ オロ ワ アット ハチリ。

nis nupur manu oro wa apto hácir.

7 雲がえらいといってもそこから雨が落ちる。

アット ヌブル クシ タシ ネ ネク。

apto nupur kus tas ne nek.

8 雨がえらいからさ。

4) kくは鼻音になって、[neŋ]と発音されている。6,10,12行目も同様。

アット ヌブル マヌ トイ カ オシマ。

apto nupur manu toy ka osma.

9 雨がえらいといっても地面に落ちこちてしまう。

トイ ヌブル クシ タシ ネ ネク。

toy nupur kus tas ne nek.

10 地面がえらいからさ。

11) hetukpa ヘトウクパは複数形。木がたくさん生えることを言っている。

トイ ヌブル マヌ カシ タ ニ ヘトウクパ。

toy nupur manu kasi ta ni hetukpa.

11 地面がえらいといってもその上に木が生える。

ニ ヌブル クシ タシ ネ ネク。
ni nupur kus tas ne nek.

12 木がえらいからさ。

ニ ヌブル マヌ アイヌ トウイバ ワ イサンバ。
ni nupur manu aynu tuypa wa isampa.

13 木がえらいといっても人間に切られてしまう。

アイヌ ヌブル クシ タシ ネ ネク。
aynu nupur kus tas ne nek.

14 人間がえらいからさ。

アイヌ ヌブル マヌ ライ ワ オケレバ。
aynu nupur manu ray wa okerpa.

15 人間がえらいといっても死んでしまう。

オラ オラウン
ora oraun

16 そして

16) rureun ルレウンと聞こえるが、同じ地方の古老方によれば ora oraun オラ オラウンと言っているはずだとのことである。このあとは節なしの語りになる。

アイヌ ヌブル ワ クシ タシ タ
aynu nupur wa kus tas ta

17 人間はえらいからこそ

フッサ フッサ イキバ コロ オラウン
hussa hussa ikipa kor oraun

18 フッフッと息を吹きかけると

17-19) 17行目の tas ta タシタ (強めの助詞) と最後の nek ネク とで、強めの係り結び。

シクヌバ ネク。
siknupa nek.

19 生き返るのさ。

後日、この録音テープを聴いていたサダモさんは、「人間は死んだらどうやっても生き返ることはないのだから、息を吹きかけると生き返ると答えたほうが負けだ」と言っていた。

[類歌]同じ歌が門別町郷土史研究会『沙流アイヌの歌謡』(テープ、門別町教育委員会所蔵)に収録されている。またこれとほとんど同じものが『知里真志保著作集2』(pp. 253-254)に原文対訳付きで、『知里真志保著作集1』(pp. 445-446)には訳文だけが、採録されている。ここでは、偶数行の nupur kus tas ne nek 《えらいからさ》の代わりに nupur wa kus ne-hi ne ne「えらいからなんですネ」となっており、またこちらので13行目からあとの部分は、そこでは人間がいちばんえらいということで終結している。

ポンカムイユカラ
PON KAMUYUYUKAR 小さい神謡(掛け合い歌、口くらべ)

(10) コンルカタ
KONRU KA TA 氷の上で

歌 貝沢こきん
採譜 奥田統己

♩ = 132

The musical score consists of six staves of music in treble clef. The first staff is in 4/4 time and contains the first line of lyrics. The second staff has a 5/4 time signature, followed by a 4/4 time signature, and then a 6/4 time signature. The third staff has a 5/4 time signature, followed by a 4/4 time signature. The fourth staff has a 5/4 time signature, followed by a 4/4 time signature, and then a 4/4 time signature. The fifth staff has a 4/4 time signature, followed by a 6/4 time signature, and then a 4/4 time signature. The sixth staff has a 4/4 time signature, followed by a 5/4 time signature, and then a 4/4 time signature. The lyrics are written below the notes.

kon- ru ka ta pon hor- kew- po ha- cir(i).

kon-ru nu-pur kus tas ne nek. kon-ru nu-pur ma-nu

cup ru- re. cup nu-pur kus tas ne nek.

cup nu-pur ma-nu ka-si nis kus. nis nu-pur kus tas

ne nek. nis nu-pur ma-nu o-ro wa ap- to

ha- cir. ap- to nu-pur kus tas ne nek.

